

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	骨折実技（下肢1）	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	教科書（柔道整復理論 -社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	杉本 知		実務経験の有無・職種	有・柔道整復師	
学習目的					
柔道整復の歴史は古く、武道と結びつくことで独特の発展を遂げ、その医療技術は柔道整復術として現代に継承されている。近年の高齢化やスポーツ愛好家の増加に伴い、柔道整復師による手術をしないで怪我を治す技術、整復や固定といった技術に対するニーズは年々高まっている。患者の肉体的な苦痛を一刻も早く取り去り、患部の回復を図ることによって早期に社会復帰させるためには適切な知識と技術が必要であり、なおかつ患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上も必要である。医学的知識や技術だけではなく、人間性の向上も含めた学習を理解させることがねらいである。					
到達目標					
柔道整復施術の観点から下肢の骨折に対して、部位別に具体的な外傷の発生機序、症状（一般外傷症状・固有症状）、病態や整復・固定・後療法などの施術の判断や方法に至るまでの注意事項を学ぶことができる。あわせて骨障害としての骨損傷を学ぶ上で必要な機能解剖学を理解する。骨折を理解するためには、骨折に関連した運動器の機能解剖学を理解することが、骨折による骨片の転位、整復、固定を考える上で重要ある。					
教育方法等					
授業概要	下肢を中心に骨傷害としての骨折を学習する上で必要な機能解剖と骨折の発生機序、症状、骨片転位、整復、固定、後療法、全体のプログラム、指導管理、予後、注意事項等を学ぶ。				
注意点	実技的要素が高く卒業後は患者の体を扱うため、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視するとともに授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。社会、特に医療の現場の動きや学生の状況などを概説するので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表（口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス、骨盤骨骨折		年間を通じての内容説明、心構え、注意点等を理解する。骨盤部の昨日と解剖を理解する		
2回	骨盤骨骨折		骨盤部の骨折に対して、発生機序、症状、特徴、病態、施術の判断・方法などを理解する		
3回	骨盤骨骨折		骨盤部の骨折に対して、発生機序、症状、特徴、病態、施術の判断・方法などを理解する		
4回	大腿骨頸部骨折		股関節部の機能と解剖および損傷を理解する。発生機序、症状、特徴、病態、施術の判断・方法などを理解する。		
5回	大腿骨頸部骨折		大腿骨頸部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する		
6回	大腿骨大・小転子骨折、骨幹部骨折		大腿骨大転子・小転子・骨幹部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する		
7回	大腿骨骨幹部骨折		大腿骨骨幹部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する		
8回	1回から7回の振り返り		1回～7回の知識が蓄積されているか確認する		
9回	大腿骨頸上骨折		大腿骨頸上骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する		
10回	大腿骨頸部骨折		大腿骨頸部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する		
11回	大腿骨頸部骨折		大腿骨頸部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する		
12回	実技の成果発表		基本包帯：股、膝、足		
13回	実技の成果発表		膝蓋骨骨折		
14回	9回から13回の振り返り		9回～13回の知識が蓄積されているか確認する		
15回	半期の総括		全体のまとめ		